

文化・教育委員会 委員名簿

資料 1

(50音順、敬称略)

委員長 青柳 正規	東京大学名誉教授
委員 秋元 雄史	東京藝術大学大学美術館 館長
浅葉 克己	アートディレクター、桑沢デザイン研究所所長
池坊 専好	華道家元池坊次期家元
市川 海老蔵	歌舞伎俳優
今中 博之	社会福祉法人素王会理事長、 アトリエインカーブクリエイティブディレクター
今村 久美	認定NPO法人カタリバ代表理事
EXILE HIRO	アーティスト、プロデューサー
小山 久美	昭和音楽大学短期大学部教授
織作 峰子	大阪芸術大学教授
桂 文枝	落語家
絹谷 幸二	東京芸術大学名誉教授、文化功労者
コシノジュンコ	デザイナー
真田 久	筑波大学体育専門学群長
SHELLY	タレント
篠田 信子	富良野メセナ協会代表、喫茶・ギャラリーあかなら代表、 C-プランニング・フラノ代表
杉野 学	全国特別支援学校長会顧問、東京家政学院大学教授
銭谷 眞美	東京国立博物館長
セーラ・マリ・カミングス	株式会社文化事業部代表取締役、 NPO法人桶仕込み保存会代表理事、利酒師
千 宗室	茶道裏千家家元
田中 稔三	キヤノン株式会社代表取締役副社長
種村 明頼	全国連合小学校長会会長
直田 益明	全日本中学校長会会長
野村 萬斎	狂言師
深澤 晶久	実践女子大学大学教育研究センター特任教授
松下 功	東京藝術大学副学長
宮田 慶子	新国立劇場演劇芸術監督
村田 吉弘	特定非営利活動法人日本料理アカデミー理事長、 菊乃井主人
山崎 貴	映画監督
吉本 光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事



資料 2

東京2020フェスティバル（仮称）の方向性

1. 検討の背景について

- 文化オリンピックの集大成として行われたロンドン2012フェスティバルは、ロンドン大会成功に大きく貢献したと評価されている。
- 大会の3週間前から、イギリス・ロンドンをアピールする多くの良質な文化芸術イベントを実施し、国内外にオリンピック・パラリンピックへの期待感を高める情報を発信し、大会の盛り上げにつなげた。
- 東京大会においても、東京2020大会の直前から「東京2020フェスティバル（仮称）」を実施することとし、フェスティバルの方向性について、間もなく大会の3年前を迎える、この時期に検討を開始した。

2. 文化・教育委員ヒアリング及びワーキンググループ（WG）実施概要

● 文化・教育委員ヒアリング

実施日：5月30日（火）、31日（水）、6月5日（月）、7日（水）の計5回

出席委員：青柳委員長、浅葉委員、池坊委員、市川委員、今中委員、今村委員、小山委員、織作委員、桂委員、
絹谷委員、コシノ委員、真田委員、SHELLY委員、篠田委員、杉野委員、銭谷委員、千委員、
田中委員、直田委員、野村委員、深澤委員、松下委員、宮田委員、村田委員、山崎委員
（五十音順、計25名）

● ワーキンググループ

実施日：4月19日（水）、5月26日（金）、6月21日（水）の計3回

出席者：

- ・ 有識者：青柳委員長、秋元委員、吉本委員
- ・ 関係機関：内閣官房、外務省、文化庁、東京都、アーツカウンシル東京、国際交流基金、
福島県、静岡県、横浜市、新潟市

3. 文化・教育委員ヒアリング及びWGで出された意見

○フェスティバル全般について

- 東京大会でも直前にフェスティバルを行うべきであるとともに、幾つかは組織委員会が主体的にプログラムを行ってはどうか。
- 組織委員会だけでなく、都、政府と連携して進めるとともに、地方自治体や文化芸術団体などが積極的に参加できる仕組みを構築する必要がある。
- プログラムの企画・制作の当たっては、文化・教育委員の企画・アイデアを積極的に取り入れてもらいたい。

○フェスティバルで実施すべきプログラムについて

- 日本の誇る最先端の技術と日本らしいものを組み合わせることが重要。
- 聖火リレーの活用やお祭りとの連携など、東京以外の地域の方々も参加した喜びを味わう形にできないか。

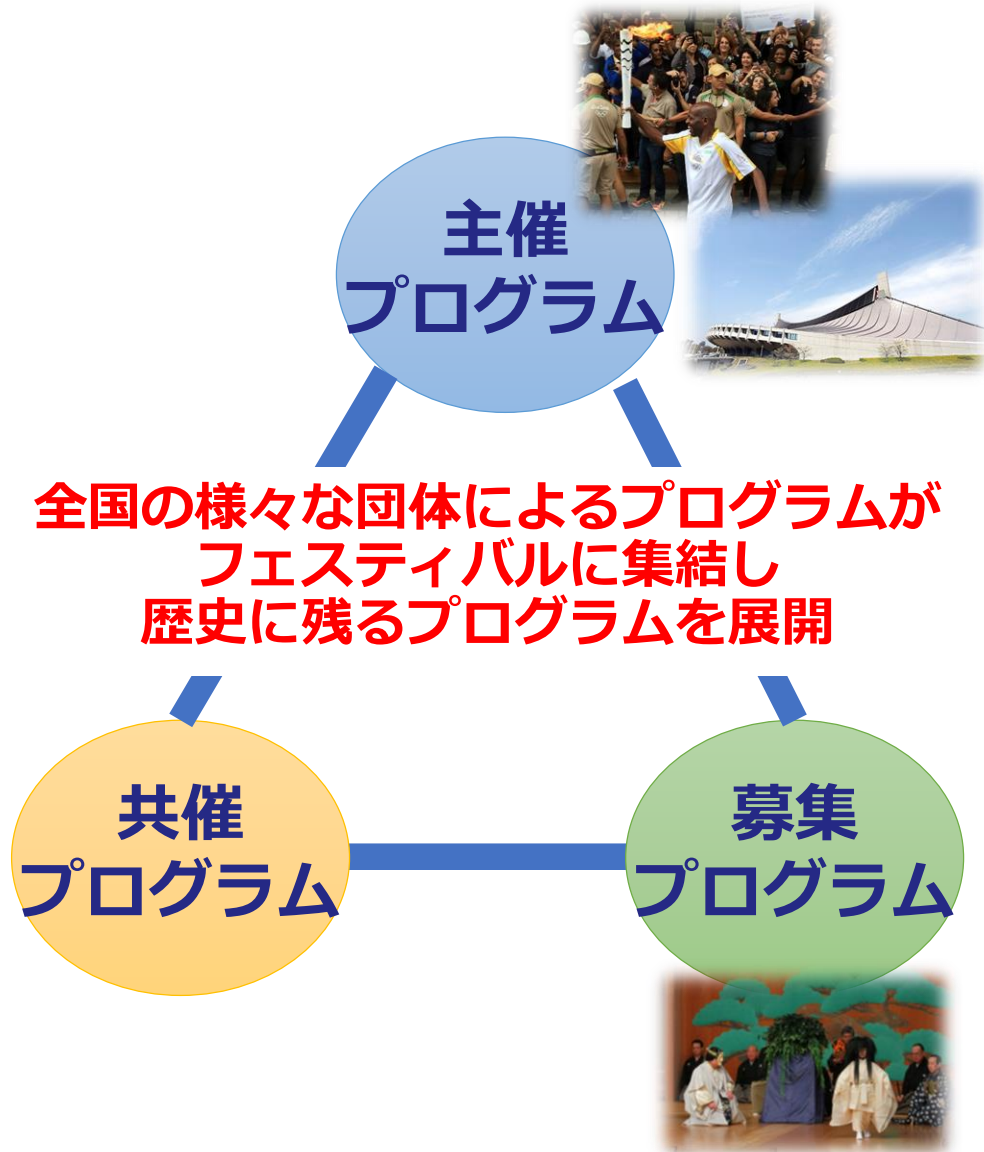
○フェスティバル・プロデューサーの配置について

- フェスティバルの中の各プログラムは、統一したコンセプトに基づき実施する必要。そのためには、こうしたフェスティバル全体を見据え、連携の中心となるプロデューサーを配置することが必要ではないか。

4. 東京2020フェスティバル（仮称）の概要

名称	東京2020フェスティバル（仮称）
会期	2020年4月頃から9月頃まで
目的	<ul style="list-style-type: none">● 東京2020文化オリンピックアードの集大成として、4つのレガシーコンセプトの実現（①日本文化の再認識と継承・発展、②次世代育成と新たな文化芸術の創造、③日本文化の世界への発信と国際交流、④全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化）を目指す。● 東京2020大会の前から国内外におけるオリンピック・パラリンピックの機運を最大化する。また、オリンピック・パラリンピックの間をパラリンピックムーブメント期間とすることにより、オリンピックの盛り上げをパラリンピックにつなぐ。

5. 事業体系



<主催プログラム>

- 組織委員会が主導し、大会と連動するプログラムを実施

<共催プログラム>

- 東京2020大会を象徴するプログラムを政府、東京都、地方自治体、文化芸術団体等と共に実施

<募集プログラム：全国地方自治体や文化芸術団体等>

- 地方自治体や文化芸術団体などが実施する、一定の要件を満たすプログラムがフェスティバルに参加できる仕組みを構築

6. 実施体制

- 各プログラムは、組織委員会を始め、東京都、政府、地方自治体などの各主体が実施する。
- 実施にあたっては、オリンピック・パラリンピック関連プログラムとして、同じコンセプトの下、各主体が相互に連携する必要がある。

【アドバイザーボードの設置を検討】

- フェスティバル全体を俯瞰し、統一したコンセプトの決定や各プログラムに関する調整等を行うプロデューサーを中心とした、複数の文化芸術の専門家によるアドバイザーボードを設置してはどうか。
- 組織委員会主催プログラムは、このアドバイザーボードの下で企画してはどうか。

7. コンセプト・テーマ（案）

<フェスティバルのコンセプト>

- 日本文化の再認識と継承・発展
- 日本文化の世界への発信と国際交流
- 次世代育成と新たな文化芸術の創造
- 全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

<プログラムのテーマ>

- 日本を象徴する場所で、古今東西の文化とテクノロジーを融合
- 東北三県、熊本等の復興の姿を各地の文化芸術により国内外に発信
- 祭など日本全国での多様な地域文化芸術活動に障がい者、子供、外国人などあらゆる人が参加・交流し地域を活性化
- オリンピック・パラリンピックの精神を文化芸術で全国に展開
- 国内外のアーティストの交流による新しい文化芸術表現の創造
- 国内外の大学生が文化芸術を通して交流し、新たなネットワークの構築

8. 主体ごとのプログラムの方向性（イメージ）

主体	プログラムの方向性
組織委員会	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 大会と連動するプログラムを中心に実施（※） <ul style="list-style-type: none"> ✓ 東京2020大会を象徴する歴史に残る大規模プログラム ✓ 聖火リレー等、大会イベントと連携したプログラム ✓ オリンピックとパラリンピックが融合したプログラム（障がい者芸術等） ✓ I O Cとの連携プログラム（国際交流）
政府	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日本文化全体を活性化するためのプログラムを推進
東京都	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東京都が大会に向けて実施する様々な文化プログラムのうち、多様な文化芸術等を国内外にP Rするプログラムなど、フェスティバルのコンセプトに合致するものを実施
地方自治体・文化芸術団体等	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東京2020大会を機に、多様な文化芸術等を国内外にP Rするプログラムを推進

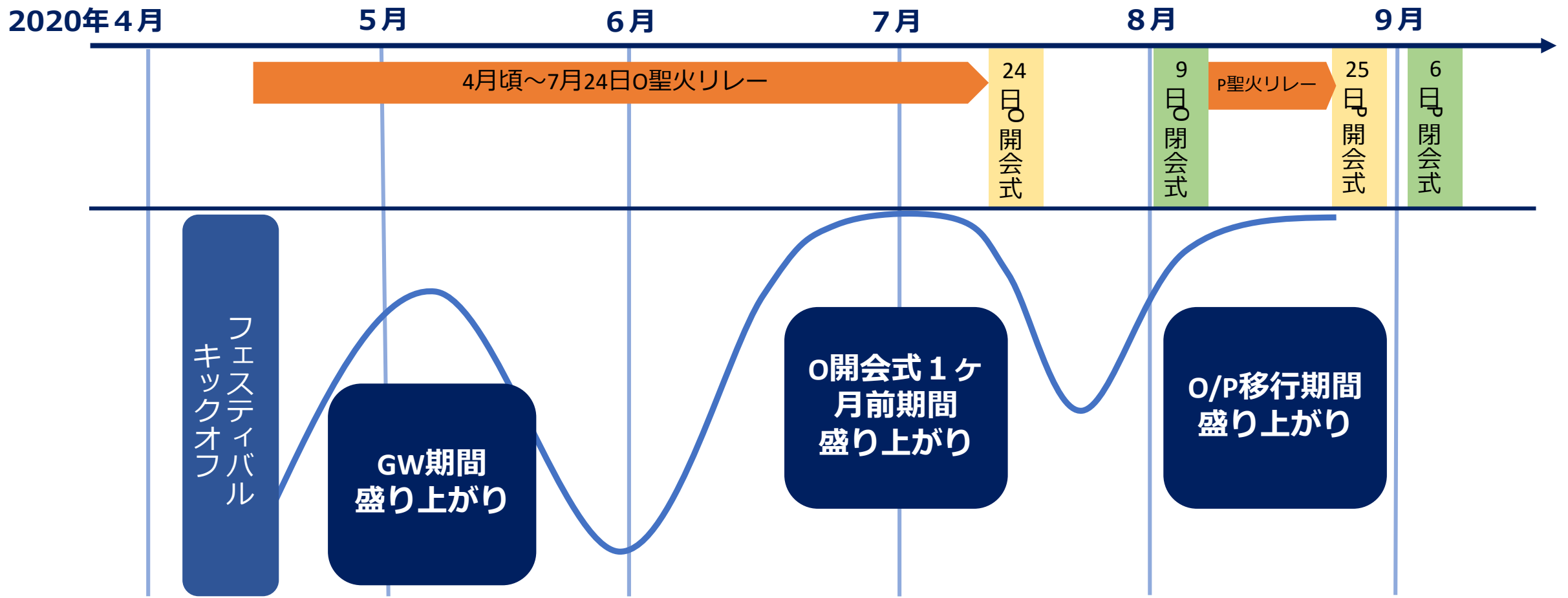
※それぞれのプログラムは参画プログラムの各分野（スポーツ、教育、テクノロジー等）とも連動しながら検討。実施に関しては、今後の予算状況による。

9. 実施期間について

<実施期間> 2020年4月頃～9月

<重点期間> ① 4月頃から5月の大型連休にかけて ②大会1か月前からオリンピック開会の前日まで
③オリンピック閉会の翌日からパラリンピック開会式の前日まで

- メインプログラムは、②と③での実施を検討
- 期間中の盛り上がりやプログラムの重複等を考慮し、開催時期を関係団体間で調整
- また、全国の様々な場所で実施できるように、開催場所を検討



10. 広報・PRについて

<フェスティバル期間>

- 出来るだけ多くの質の高いプログラムに参加いただくために、東京都や政府等とも連携し、フェスティバルだけでなく、大会直前から始まる日本全国の様々なプログラムを包括的にPRしてはどうか
- フェスティバルの各プログラムの一体感を醸成するために、マークの開発を検討
- 組織委員会の公式Webサイト、SNSから国内外に発信
- フェスティバルのプログラム冊子への掲載（国内外へ配布）

<文化オリンピックの認知度向上>

- 1000日前や2年前に実施するマイルストーンプログラムを通じたPR
- 文化オリンピック認証事業でも活用できるPR映像を制作予定
- 大会放送権者、パートナー企業の新聞各社との連携



ロンドン2012フェスティバルの
ロゴマーク

1 1. 今後の行程について

本日の文化・教育委員会でのご意見を踏まえ、以下について、今後、検討を進める。

- **フェスティバルの基本的な方向性を決定**
- **プロデューサーを決定、アドバイザリーボードを設置**
 - ✓ **フェスティバルのコンセプトを決定**
 - ✓ **主催プログラムを企画**



アクション&レガシープラン2017及び東京2020参画プログラム

目次

1. **アクション&レガシープラン2017 概要**
2. **東京2020参画プログラムの現状**
3. **夏へ向けた機運醸成についての概要**

1. アクション&レガシープラン2017 概要

全体概要

			概要
Part A	本文	第一章：はじめに	アクション&レガシープランの全体像
		第二章：スポーツ・健康	各章の基本的な構成 ・レガシー：2020年以降を見据え、何を後世に残すべきか ・アクション：実施されたアクション及び、レガシー創出の為に取組まれているアクション及び行うべきアクション（主な例） （レガシー及びアクションの前提となる「基本的な考え方」や「現状と課題」については、2016年を参照として本年度版では省略）
		第三章：街づくり・持続可能性	
		第四章：文化・教育	
		第五章：経済・テクノロジー	
		第六章：復興・オールジャパン・世界への発信	
		第七章：東京2020参画プログラム	東京2020参画プログラムについて記述
		第八章：東京2020フェスティバル（仮称）	東京2020フェスティバル（仮称）について記述
Part B	一覧表	アクション一覧	政府、東京都、被災3県、JOC、JPC、経済界、組織委員会等のアクション一覧を記載
Part C	一覧表	参画プログラム認証事業一覧	東京2020参画プログラムにおいて認証された事業の事例を紹介

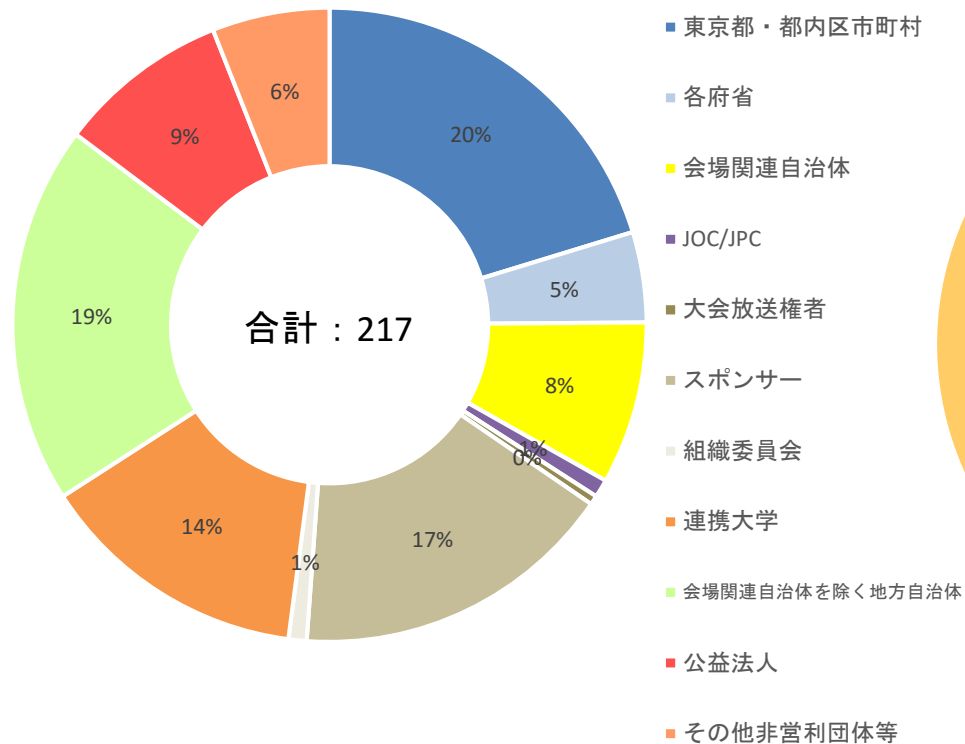
2016年版からの主な変更点

- 全体構成として、本文とアクション一覧及び参画プログラムの認証事業一覧の三部構成に変更。
- 本文については時点更新及び「東京2020参画プログラム」「東京2020フェスティバル（仮称）」について追記。2章以降の「基本的な考え方」「現状と課題」については省略。
- アクション一覧については時点更新。参画プログラムの事業については各事業毎に1枚ものを作成。

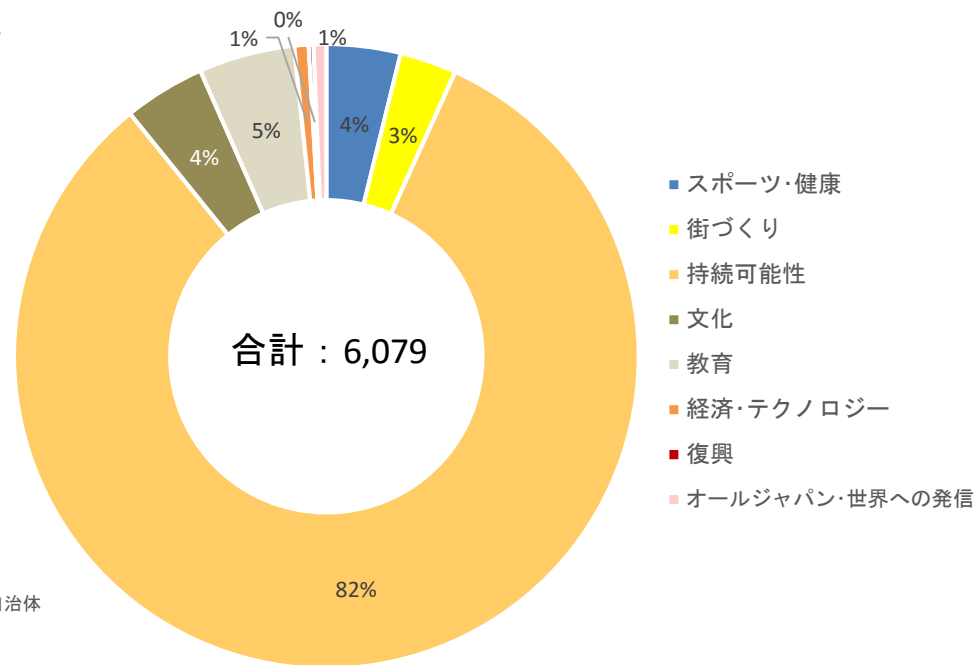
2. 東京2020参画プログラムの現状①

- 2016年5月末時点で217の団体が主体登録を実施し、6,079件のアクションが認証されている。教育プログラム実施校は3,731校となり、東京2020参画プログラムの認証件数は全体で約10,000件。アクションの参加人数は約280万人となっている。

主体登録数



認証済み件数



都道府県別学校認証数

都道府県	学校数	都道府県	学校数
岩手県	4	山梨県	6
宮城県	23	静岡県	4
山形県	9	京都府	50
茨城県	12	大阪府	2
栃木県	41	兵庫県	6
群馬県	2	奈良県	1
埼玉県	288	広島県	7
千葉県	207	福岡県	13
東京都	2,327	長崎県	22
神奈川県	680	熊本県	22
石川県	5	合計	3,731

※各データは5月31日時点

2. 東京2020参画プログラムの現状②（東京2020大会に繋がる事例）

持続
可能性

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト！



- 実施期間： 平成29年4月～平成31年春頃（予定）
- 場所：参加自治体（878自治体）、全国のドコモショップ（約2,400店舗）
- 体制： 東京2020組織委員会・NTTドコモ・日本環境衛生センター・環境省・東京都
- 内容： 金・銀・銅のメダル製造に、全国から「国民参画」によって回収した小型家電から抽出した金属を使用する取組み

2. 東京2020参画プログラムの現状②（東京2020大会に繋がる事例）

教育

東京2020大会マスコットデザイン募集



- 募集期間： 平成29年8月1日～14日
- 内容： 最終審査として全国の小学校のクラスごとに投票を行い、最も得票の多いデザインで決定。
来年3月頃の発表を予定。（ネーミングの決定は来年夏頃の予定）

2. 東京2020参画プログラムの現状③

東京2020文化オリンピックの状況

認証済みアクション件数（平成29年5月末時点）：256件

★注目のアクション

アクション名：キッズ伝統芸能体験

主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

概要：

伝統芸能の一流の実演家が、ふさわしい稽古場で、子供たちに直接、定期的かつ継続的に指導を行う。これらの条件を重ねて果たすことで、伝統芸能の世界が培ってきた礼儀作法、厳しさなどの文化環境を、子供たちが自然と身につけられるような学びの場をつくる。あわせて、その成果を舞台上で発表する機会を提供することによって、目的意識をもって学ぶ大切さを知る。



3. 夏へ向けた機運醸成について（概要）

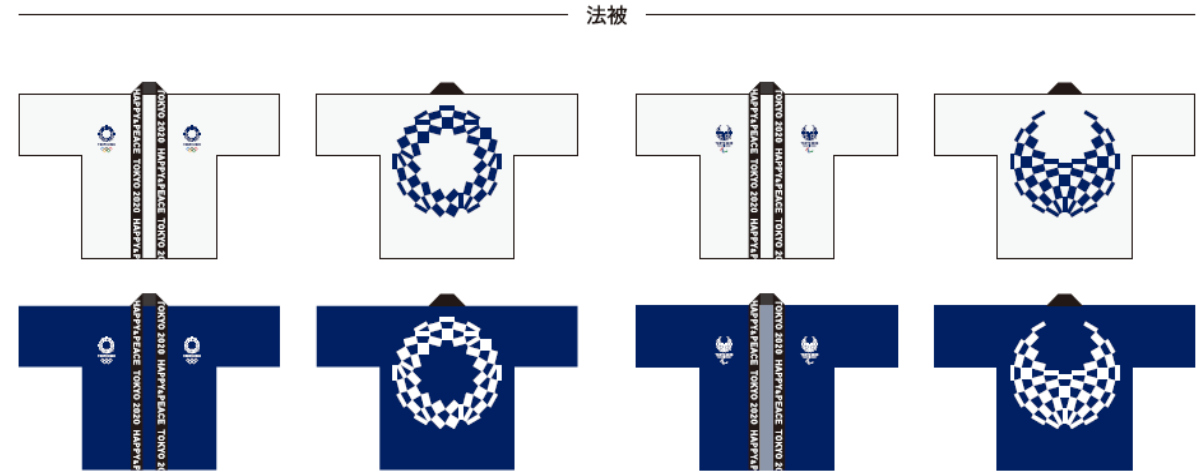
2020年まで、あと夏は3回。

今年の夏は、東京都、国、会場関連自治体、スポンサー、その他を含め日本全国で大会に向けた機運を醸成していきたい。

- 大会エンブレムを使った法被、うちわ。
- 同時期に各地で行われる3年前イベント、全国フラッグツアーとの横の連携。
- 全国で行われる夏祭りでも、大会と関連付けて盛り上げる。
- 参画プログラムも「3 Years to Go!」として、特別マークを用意。
- 今後の1000日前イベント、来年の平昌大会などとの縦の連携。
- 公式SNS等に、多くの方々に参加頂き情報を発信する。

3. 夏へ向けた機運醸成について ①

～この夏！「法被・うちわ」で全国夏祭りを盛り上げたい！～



法被 一般販売価格 1着 5500円（税込）



うちわ 一般販売価格 2本セット 300円（税込）

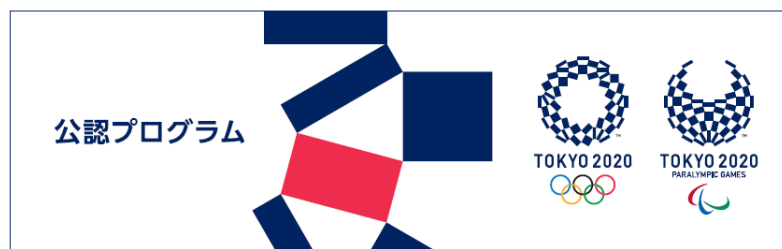
7月3日（月）より、東京2020オフィシャルオンラインショップ[®]他にて、一般販売を開始いたします。その他の詳細等については、公式ホームページでお知らせいたします。<https://tokyo2020shop.jp/>なお、一般販売に先駆け、全国の商工会議所などに夏祭りでの活用をお願いし、既に、うちわは14万本以上の申込をいただいております。引き続き全国の自治体や関係各所にお声がけしていきます。

3. 夏へ向けた機運醸成について ②

～ みんなで参画!&みんなでつながる!～



参画プログラムは、本年4月現在で約9000件のつながりをもたらしました。2017年7月20日(木)より応援プログラムの対象団体を拡大します。地域の皆様からの参画をお待ちしております。



3 Years to Go!



3 Years to Go!

東京2020大会3年前を機に、『3 Years to Go!』入りの参画プログラムのマークを展開します(7～9月を予定)。全国で展開される夏祭り・イベント等に使用していただき、機運醸成に繋げていきます。

3. 夏へ向けた機運醸成について ③

応援プログラム（夏祭り）について

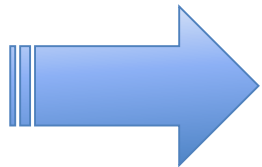
- 東京2020大会に向けて、日本の伝統文化である夏祭りを絡めた、機運醸成施策を展開。
- 夏祭りを応援プログラムとして認証するために、夏季限定の専用のガイドライン（2017年度版）を策定。ガイドラインには以下の内容を記載。
 - ・協力者・後援者等の条件を一定の条件で緩和
 - ・パートナー以外の営利団体の広告等媒体（マークを使用しない）での露出
 - ・会場における飲食店等の出店



東京2020教育プログラム（愛称：「ようい、ドン！」） 戦略策定に向けた検討について

はじめに

- ① 「ようい、ドン！スクール」は2016年10月の受付開始以降、約3,700校に到達。
今後は、東京都以外の全国の学校の参加をどのように促していくか
- ② マスコットの小学生投票やフラッグツアーの学校訪問等、学校参画の取組を進めてきた。
今後も、2020年に向けて、学校や子供たちの参画の仕掛けを継続するため、どのような方策が考えられるか
- ③ 「I'mPOSSIBLE」や「学習読本」等、オリンピック・パラリンピックの価値や理念を伝える教材は整ってきた。今後、子供たちがより能動的に参画・体験できるような工夫としてどのようなことが考えられるか



本日、頂戴した意見を踏まえ、2020年に向け、教育プログラム「ようい、ドン！」としての「戦略」を整理していくこととしたい。

< ようい、ドン！スクール >



- オリンピック・パラリンピック教育実施校を組織委員会が認証。
- 2016年10月に認証開始（2017年4月から全国展開）し、現在は3,731校に拡大。



4/16 全国展開キックオフイベント
（認証書の授与式）
～千葉市打瀬中学校～



5/31 フラッグツアー（学校訪問）
～熊本県熊本市立帯山中学校～

（2017年6月1日時点）

都道府県	学校数
岩手県	4
宮城県	23
山形県	9
茨城県	12
栃木県	41
埼玉県	288
千葉県	207
東京都	2,327
神奈川県	680
石川県	5
山梨県	6
静岡県	4
京都府	50
大阪府	2
兵庫県	6
奈良県	1
広島県	7
福岡県	13
長崎県	22
熊本県	22
総計	3,731

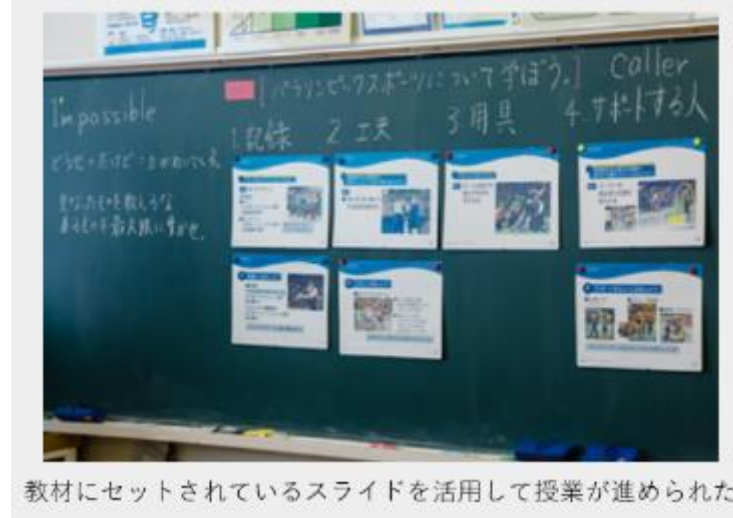
ようお願い、ドン！プログラムの普及

- 学校関係者に対し、マスコット選定における小学生による投票への参加の呼びかけと合わせ、ようお願い、ドン！プログラムや関連教材に関する周知を実施中。
 - ・ スポーツ庁を通じた学校関係者への通知
 - ・ 学校関係者に向けた広報資料での紹介（「教育委員会月報」等）
 - ・ スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」における全国セミナー（教育委員会を対象とした研修会）での紹介
 - ・ 各種の教育委員会関係団体会合での紹介
- 翌年度以降のようお願い、ドン！スクールの普及・拡大を見据え、継続的に周知に取り組む。

<教材のウェブサイト配信>

(1) 国際パラリンピック委員会 (IPC) 公認教材「I'mPOSSIBLE」(アーム・ポッシブル)

・ウェブサイト掲載時期：本年7月上旬目途



(2) 国際オリンピック委員会 (IOC) 教材 「オリンピック価値教育プログラム」(OVEP)

・ウェブサイト掲載時期：本年7月末目途



(3) 東京都教育委員会が作成した教材を基本とした学習読本

・ウェブサイト掲載時期：調整中

東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー

<2016年10月～2017年6月まで>

- ・ 東京都内全62区市町村を訪問
- ・ 被災地（福島県、宮城県、岩手県、熊本県）を訪問

<2017年7月以降>

2017年7月24日開催のオリンピック3年前カウントダウンイベントを契機に**全道府県**に展開

● 学校を訪問する場合

オリンピックやパラリンピアンによる小中学校訪問教育イベント（講演・実技）を併せて実施



全国の小学生によるマスコット投票

- 史上初めて小学生が選ぶマスコット
- クラスで話し合いをして、意見を一つにまとめるという体験をしてもらうため、全小学校による学級ごとの投票を実施
- 投票を大会に関わるきっかけとし、大会終了後も記憶に刻んでもらいたい



<リオ大会のマスコット>

<想定スケジュール>

- ・ オリンピック・パラリンピックの理念やマスコットの意義等について、学級全体で学ぶ際の指導案を作成・提供（7月上旬）
- ・ 全国の小学校からの参加登録受付（10月～11月）
- ・ 外部有識者で組織した審査会においてマスコットを3～4候補に絞った後、全国の小学校（任意参加）において、各クラス単位で投票（12月～2018年1月）
- ・ デザインの決定（発表）（2018年3月）

大学連携'17イベント「Tokyo2020学園祭」 (6月24日実施)

- 6月23日がオリンピックデーおよび東京2020組織委員会と全国の大学・短期大学との連携協定締結がスタートした日であることを記念して実施。
- ステージでは、かつて近代オリンピック競技の1つであった「芸術競技」をアレンジし、連携大学生によるパフォーマンスバトルが行われた。
- 特設ブースでは、みんなのメダル・プロジェクトの携帯電話等の回収や、「東京2020大会の開会式・閉会式で世界にアピールしたい日本の良いところ」に関する意見募集を実施。



大会開催に向けたマイルストーン

2017

Now

2018

▶▶▶

2020大会

4月

6月

7月

10月

12月

2月

4月

学校事業認証 全国展開

6月～7月末

教材の配信

7/24

8/25

オリンピック・パラリンピック3年前イベント

都内フラッグツアー

7/24～

全国フラッグツアー（各地域の学校を訪問）

10/28～11/29

オリンピック・パラリンピック1000日前

オリンピック・パラリンピック
教育の推奨

12月

マスコット投票

2月

学校へのマスコット訪問

大会前

聖火リレー

大会中

学校観戦
プログラム

5. 過去大会の事例（ロンドン大会）



<実施時期>

開催前

聖火リレー・・・12歳ランナー212人を認証校から選出。

レシピコンテスト・・・認証校から出場アスリートのために考案されたレシピを公募。最優秀レシピを選手村の料理にて提供。

大会期間中

観戦席・・・自治体等との連携の下、教育プログラム認証校の児童・生徒（30万席）に大会観戦機会を提供。

美術作品の展示・・・認証校の生徒が作成した作品32,000点を会場に展示。

パフォーマー・・・1,500人の子供たちが各種式典でパフォーマンスを披露。

5. 過去大会の事例（リオ大会）



<実施時期>

開催前

教員研修の実施・・・体育教師や教育関係者に対する研修会を開催。

Young Agents・・・学校内でのオリンピック・パラリンピック教育の伝道師役となる生徒を認定。

スポーツフェスティバル・・・各種競技の体験会を中心としたイベントを24回開催。

観戦席・・・自治体等との連携の下、児童・生徒（47,837席）に大会観戦機会を提供。
教育プログラム オリジナルTシャツを配布。

大会期間中



資料 3 - 3

東京2020参画プログラムの活性化

※本資料は、具体的に計画しているものではなく、あくまで本日の議論のたたき台として準備したものです。

1. 東京2020参画プログラムの活性化（文化・教育）

- **（持続可能性×文化）**

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」との連動企画
⇒ リサイクル金属以外の様々な部品を使い、アート作品を作る
ワークショップ



- **（オールジャパン×教育）**

「小・中学生ポスター募集」との連動企画
⇒ 大会と連動し作品を様々な場所で展示
⇒ 優秀作品作成者がキュレーションし展示会を実施



- **（大学連携×教育×文化）**

オリンピック・パラリンピックをテーマにした作品制作（映像・アニメ・モニュメント等）



- **（オールジャパン×夏祭り×文化）**

1964レガシーである「オリンピック音頭」を活用した事業（音楽や踊りをアレンジ）

- **（エンブレム×オールジャパン×文化）**

藍色や市松模様をフラッシュモブなどで活用



2. 参画プログラムの活性化アイデア（その他分野）

分野	内容
スポーツ・健康	<ul style="list-style-type: none">• 運動会の活用（パラスポーツ・東京2020大会新種目を取入れた運動会、地域の学校の合同運動会、特別支援学校との共同運動会「地域のオリパラ運動会・応援合戦」）• 1人1アスリート運動（アスリートに対し学校で応援メッセージを寄せ書き。選手村で寄贈。ホームページでの掲載。アスリートからの返事。）• 自己ベストサイト（あらゆる人の自己ベストを募集するサイト。例えば、初めてマラソンを完走したなど。）• 種目別アイデア募集（競技種目を盛り上げるためのアイデア募集。例えば、その競技を知ってもらうための体験教室。）• 競技会場に親しみを持ってもらうイベントの検討（競技会場を使用したトライアルゲームなど）
街づくり・持続可能性	<ul style="list-style-type: none">• スポーツゴミ拾い（ゴミ毎にポイントを設定し、ゴミ拾いを競うイベントの呼びかけ例えば、本イベントに専門委員等に任意参加していただき、取組を全国に広めてもらう）• ゴミアート（廃棄物でアート作品作成を呼びかけ 例えば、大会時の廃棄物や仮設会場建設での廃棄資材を有効活用し、アート作品を創造）• サイネージ（例えば、競技会場周辺の利便性を大会通じてさらに向上させるために地元学生から大会時のサイネージ案を募集）• バリアフリーマップ（例えば、競技会場周辺のバリアフリーマップの作成を小中学生に呼びかけ、その後地域の公園に掲載）• 大会で使用した資材等の活用（例えば後の大規模スポーツイベント等で、大会で使用したケーブルやごみ箱等の活用）

2. 参画プログラムの活性化アイデア（その他分野）

分野	内容
経済・テクノロジー	<ul style="list-style-type: none">• 地域の魅力を発信する映像作品の募集（ホストタウンの魅力を発信等）• 高臨場感技術やインタラクティブなコミュニケーション技術を活用した競技観戦• テクノロジーを活用したパラスポーツ体験（VRやIoTによる新しいスポーツ体験等）• トップアスリートの動きを体感（パワースーツによる体感、ロボットによるデモ等）• 東京2020大会の競技をテーマとしたロボコンを開催（ロボットボッチャ大会等）• 日本の最先端の技術を体験できるショーケースを実施
復興・オールジャパン・世界への発信	<ul style="list-style-type: none">• 全国のご当地PR映像の募集・発信（全国都道府県から募集し、大会開催時にジャパンハウスなどで発信）• 県産品活用の検討（会場等での地元産品の活用を検討）• ポスター企画（小中学生からポスターを募集。大会時に選手村等で活用。例えば、各国・競技などをテーマにしたポスターを募集し、選手の部屋に飾るなど）• 子供レポーター（児童・生徒が東京2020大会時にレポーターとして大会の会場内の様子や選手、大会のスタッフなどを取材。例えば、組織委員会HP等で情報を発信）• 被災地から世界に向けたメッセージの発信（被災地の競技会場等で復興支援への感謝のメッセージ、復興の状況、東北の伝統芸能などを発信）